

ニホンイシガメ **その他**

鹿児島市の川には、ほかにも
たくさん生きものたちが生息
しています。
その一部を紹介します。



●ウシガエル：別名食用ガエル。牛のよう
な大きな声で鳴く。特定外来生物。



●カジカガエル：きれいな川の上流から中
流にすむ。フィフィフィと鳴く。



●ニホンイシガメ：昔から親しまれてきた
が、最近数が減っているという情報あり。



●ヌマガエル：水田付近でたくさん見られ
る。腹が白いのがとくちょう。



●ツチガエル：川に多い。ヌマガエルに似
ているが、こちらは腹が灰色。



●アカミミガメ類：ペットのミドリガメが
成長したもの。要注意外来生物。



●スッポン：歯がするどいので、顔の近く
はさわらないように。食用になる。

ア行	アオサギ	17, 18, 21, 27, 38	サ行	スッポン	18, 44
	アカミミガメ類	25, 44		セイタカアワダチソウ	37
	アカメガシワ	22, 36		セイタカシギ	34, 39
	アキカサスゲ	37		セイタカヨシ	3, 20, 24, 25, 26, 37, 38
	アメリカザリガニ	9		セスジユスリカ	9
	アユ	8, 15, 18, 21, 23, 26, 40	タ行	タイコウチ	9
	アラカシ	14, 17, 22, 36		タウナギ	40, 41
	イシマキガイ	9, 15, 19, 26, 27, 34, 42		タカハヤ	8, 17, 18, 22, 27, 29, 30, 40
	イトヒヨドリ	39		タチスズメノヒエ	38
	ウグイス	14, 17, 30		チカダイ (ティラピア)	25, 40
	ウシガエル	34, 44		チガヤ	19, 20, 21, 24, 28, 30
	ウナギ	8, 15, 25, 40		チョウバエ	9
	エビモ	6		ツチガエル	44
	エラブタマダラカゲロウ	43		ツルヨシ	6, 14, 15, 17, 19, 23, 24, 28, 37
	エラミミズ	9		テナガエビのなかま	24
	オイカワ	8, 14, 20, 21, 24, 26, 27, 28, 40		テントウムシ	32
	オオイヌタデ	23, 36		トビ	19, 23, 39
	オオカナダモ	6, 18, 28, 36, 37		ドンコ	8, 14, 28, 41
	オオフサモ	6, 25, 34, 36, 37, 38	ナ行	ナガレトビケラのなかま	9
	オオヨシノボリ	17		ナマズ	8, 18, 20, 21, 29, 40
	オギ	19		ナミウズムシ (ウズムシ)	9, 17, 18, 28, 30, 42
カ行	カイツブリ	7, 24, 25, 38		ニッポンヨコエビ	28, 42
	カジカガエル	30, 44		ニホンイシガメ	25, 44
	ガマ	6		ヌマガエル	44
	カルガモ	26, 38	ハ行	ハクセキレイ	29, 39
	カワセミ	6, 14, 18, 21, 22, 26, 27, 30, 39		ハグロトンボ	43
	カワニナ	9, 14, 26, 30, 42		ハシボソガラス	23
	カワムツ	8, 14, 17, 22, 24, 28, 40		バン	24, 25, 39
	カワラヒワ	38		ヒドリガモ	7, 24, 38
	キジバト	20, 22, 39		ヒナハゼ	26, 41
	キセキレイ	17, 24, 29		ヒメガマ	6
	ギンブナ	8, 24, 28		ヒメジョオン	27
	クサマオ	27, 36		ヒラタカゲロウのなかま	9, 17, 18, 28
	クサヨシ	6		ヒラテテナガエビ	20, 21, 22, 29, 42
	クズ	18, 22, 30, 36		ヒル	9
	ゲンジボタル	9, 22, 42, 43		ブルーギル	25, 34, 40, 41
	ゲンノショウコ	36		ヘビトンボ	9
	コイ	3, 8, 15, 19, 21, 23, 24, 27, 40		ホテイアオイ	6, 25, 26, 36
	ゴイサギ	24, 25		ボラ	15, 19, 23, 26, 27, 41
	コオニヤンマ	9, 22, 23, 43	マ行	マダケ	29
	コガタシマトビケラ (のなかま)	9, 14, 20, 21, 26, 28, 30, 43		ミサゴ	15, 19, 38
	コガタノゲンゴロウ	29, 43		ミズカマキリ	9
	ゴクラクハゼ	18, 41		ミズムシ	9
	コサギ	17, 25, 26, 38		ミゾソバ	6, 36
	コヤマトンボ	19		ミゾレヌマエビ	15, 19
サ行	サカマキガイ	9		ミナミヌマエビ	27, 42
	ササゴイ	3, 38		ミヤマカワトンボ	17
	サワガニ	9, 17, 29, 30, 43		ムクドリ	39
	シジュウカラ	14, 18, 30		メダカ	8, 19, 21, 23, 25, 26, 27, 34, 40, 41
	シマアメンボ	43		メダケ	14, 18
	ジュズダマ	37		モクズガニ	3, 15, 19, 20, 23, 42
	シラン	36, 37	ヤ行	ヤナギニガナ	36
	スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	28, 42		ヤマガラ	22
	ススキ	21, 29, 30		ヤマセミ	22, 38
	スズキ	19, 41		ヨシ	6
	スズメ	23, 38		ヨシノボリのなかま (類)	8, 17, 20, 22, 26, 27, 40

●P14~P30に掲載した調査地点ごとの生物は、代表的なもので、全てではありません。

ヨシノボリの
ゆかき

魚類

ウナギ

鹿児島市の川では25種の魚類が確認されました。甲突川下流や和田川の調査地点は河口が近いため、汽水域にすむ魚類もふくめ、多くの魚類が見られます。また、ほとんどの川で10～20匹のコイの群れが確認されており、一部の川ではブルーギルやチカダイなど外来魚が確認されています。一方、全国的に減少しているメダカがあちこちで確認されています。鹿児島では珍しいタウナギも見つかりました。



●コイ：食用の他、ニシキゴイも有名。コイには幼魚の頃からヒゲがある。



●カワムツ：濃い藍色の線がとくちょう。産卵期のオスは、あざやかな朱色になる。



●オイカワ：明るい瀬に多い。産卵期のオスはきれいな青、赤、黄色に色づく。



●タカハヤ：冷たい水を好むため、上流に多い。体はヌルヌルしている。



●ナマズ(幼魚)：在来の川魚では最大級の肉食魚。夜行性。ひげは4本ある。



●アユ：清流の魚として、古くから親しまれている。甲突川のアユ釣りが有名。



●メダカ：主に水田や水路など、止水域に生息する。全国的に数が減少している。



●スズキ：河口から中流まで生息し、1mをこえるものもいる。大型の肉食魚。



●ボラ：汽水域に多く、市街地の川でも見られる。水面を高くジャンプする。



●ヒナハゼ：体長1～3cm。下流に多く、石や落葉の下などに隠れている。



●タウナギ：元々日本にいたかは不明。水面から空気呼吸できる。へびに似る。



●ブルーギル：特定外来生物。湖や池に多い。魚の卵や水生昆虫を食べてしまう。



●ドンコ：水草の中や石の下にかくれて、小魚や水生昆虫などをとらえる。



●ゴクラクハゼ：下流の汽水域に多い。川底が砂地のところを好む。

底生動物

鹿児島市の川では、121種の底生動物が確認されました。テナガエビ類、コカゲロウ類、ユスリカ類はどの調査地点でも確認され、特に水際の植物や瀬がある地点では、トンボ類の幼虫やカゲロウ類、トビケラ類が多く見られました。和田川では絶滅危惧種のイシマキガイが確認され、甲突川と脇田川の上流ではゲンジボタルが少数ながら確認されており、これらの良好な生息環境が残されていると考えられます。



●イシマキガイ：汽水域に多い。県RDBでは準絶滅危惧に指定されている。



●スクミリンゴガイ：南アメリカ原産の外来種。ピンク色の卵を産む。



●カワニナ：流れのある川に多く、ゲンジボタルの幼虫やモクスガニのエサになる。



●ニッポンヨコエビ：わき水や渓流など、きれいな水にすむ。体を横にして動く。



●ヒラテテナガエビ：ハサミがやや太く、早瀬など流れのあるところにすむ。



●ミナミヌマエビ：植物が多い川や池にすむ。石についた藻などを食べる。



●サワガニ：川の上流にすみ、県内では青白色から赤色までいろいろ見られる。



●ハグロトンボ：流れがゆるやかで植物の多いところにすむ。成虫の羽は黒色。



●シマアメンボ：上流のきれいな水にすむ。羽のないものが多いが、動きが早い。



●コガタノゲンゴロウ：植物の多い水域にすむ。全国的に数が減少している。



●エラブタマダラカゲロウ：中流から下流の流れがゆるやかなところにすむ。



●コオニヤンマ：流れがゆるやかな川にすむ。葉のような平たい体をもつ。



●コガタシマトビケラ：石の下に小さな網をはり、引かなかった植物を食べる。



●ゲンジボタル（幼虫）：清流にすむ水生昆虫の代表種。5月ごろ羽化する。